

科 目		必・選	担 当 教 員		学年・学科		単位数	授 業 形 態					
地域と文化Ⅳ (ヨーロッパ) Region & Culture Ⅳ (Europe)		選択	吉田芳弘		5 年生 (各学科共通)		1	半期 週 2 時間					
授業概要		「不調和なるものの調和」と形容されるヨーロッパ地域の文化的特色を、いくつかの項目に分けて学習する。各項目においては、該当する問題を扱った文学や芸術にも言及すると共に、現代の日本に住む私たちとの係わりも考えることとする。											
到達目標		①国際的視野を持った技術者の育成を目指し、宗教や多民族社会など異文化理解を深める。(A) ②「ヨーロッパ」なる地域の文化的特質の概要を知る。(A)											
評価方法		定期試験は、中間試験を行わず期末試験のみとする。 1 回の定期試験 (60%) および提出物 (40%) で評価する。											
教科書等		教科書は使用せず、毎回の授業内容をまとめたプリントを、各回の授業で配布する。各自でバインダー等に綴じて保管しておくこと。											
内 容									学習・教育目標				
第 1 週		地理的ヨーロッパ							A				
第 2 週		ヨーロッパの歴史概観							A				
第 3 週		「EU (欧州連合)」という思想と現実							A				
第 4 週		EU思想の背景——ヨーロッパ人の戦争と虚無の経験							A				
第 5 週		ヨーロッパ人の住む世界を構成するもの (1) —— 神・世界・人間							A				
第 6 週		ヨーロッパ人の住む世界を構成するもの (2) —— 時間と空間							A				
第 7 週		ヨーロッパ人の住む世界を構成するもの (3) —— 法							A				
第 8 週		「ヨーロッパ的人間」像——問いかけ行為する人間							A				
第 9 週		ビデオ鑑賞 (前編)							A				
第 10 週		ビデオ鑑賞 (後編)							A				
第 11 週		ヨーロッパの源 (1) —— 古代ギリシャとローマの文化							A				
第 12 週		ヨーロッパの源 (2) —— ユダヤ・キリスト教							A				
第 13 週		ヨーロッパの源 (3) —— 古代ゲルマンの世界							A				
第 14 週		ヨーロッパの源 (4) —— 異界と他者							A				
第 15 週		「不調和なるものの調和」——ヨーロッパの宿命と近・現代ヨーロッパ							A				
第 16 週													
第 17 週													
第 18 週													
第 19 週													
第 20 週													
第 21 週													
第 22 週													
第 23 週													
第 24 週													
第 25 週													
第 26 週													
第 27 週													
第 28 週													
第 29 週													
第 30 週													
(特記事項)			JABEEとの関連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
			本校の学習 ・教育目標	A	B	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
			○										

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつとなります。)

「地域と文化Ⅳ（ヨーロッパ）」ガイダンス

君たちは、ヨーロッパが何故「ヨーロッパ」と呼ばれるのかを知っていますか。あるいは何故この地域の国々が「EU」（欧州連合）という形で、個々の国でありながら一つにまとまろうとするのでしょうか。この授業では、しばしば「不調和なるものの調和」と形容されるヨーロッパ地域の文化的特色を、幾つかの項目に分けてお話しします。各項目では、該当する問題を扱った文学や芸術にもできるだけ言及すると共に、現代の日本に住む私達とのかかわりも、あわせて考えていきたいと思います。

各週の学習内容

第1週～第2週	ヨーロッパの地理的特質と歴史を概観する。
第3週～第4週	現在進められている「EU（欧州連合）」の試みを概観し、その背景にある戦争の歴史と、破壊殺戮が生み出した虚無と絶望の深さに目を向ける。
第5週～第8週	ヨーロッパを「神・世界（時間と空間）・人間」という観点から概観するとともに、現在の私たちの日本の姿との比較も行なう。
第9週～第10週	ビデオ『スパニッシュ・アパートメント』（予定）を鑑賞する。
第11週～第15週	授業前半（第3週～第8週）で見たヨーロッパの特質を、そのいくつかの根源にたどり概観し、「不調和なるものの調和」としてしかありようのないヨーロッパの宿命を確認する。

尚、教科書を使用しない講義形態の授業であるので、言わずもがなのことではあるが、授業を真面目に聴講し、不明な点は担当者に質問し参考文献にあたる等するとともに、配布したプリントを基に書き込む等してノートをまとめ、授業内容の整理を心がけること。

また授業に関連しての「課題」を数件提出してもらおう。「評価方法」にあるように、評価において「課題」の提出は大きなウエイトを占めているので、提出漏れの無いよう注意すること。